笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート　2021.4　April　vol.54-1

二月定例議会一般質問概要

コロナ禍での支え合い

不安を抱える人たちに寄り添う

2月16日から3月16日まで定例議会が開かれました。議会では、新型コロナ感染症対策147億円余をはじめ新年度へとつながる補正予算も含め総額4，944億円の予算案など83議案を可決しました。収束が見えない新型コロナ感染症による県民生活への影響は大きく、不安を抱える県民の皆さんとつながり支えあう仕組みづくりが必要です。

生活苦など悩みを抱える人につながり支える仕組みづくり

❤市町村や社協などの窓口での丁寧な情報提供や、支援につながる相談支援体制の構築についての考えはいかに。

健康福祉部長　生活に困窮する方々を必要とする支援につなげていくためには、様々な支援制度を丁寧に周知していくことが重要。そのため、住民に身近な市町村や社会福祉協議会などの相談窓口が連携し、相談者の生活状況を十分に把握した上で、関係する支援制度や税金、保険料の減免制度等について相互に案内するなどの対応を行っていくことが必要。県では市町村や社会福祉協議会と連携し、必要な支援が届けられるよう取り組む。

❤教育委員会が実施しているLINEを活用した中高生の相談が効果を上げているが、一般の人たちへのインターネット等を活用した相談窓口の開設についていかに。

健康福祉部長　今後の取組として自死リスクを抱える方やその周辺の方などを直接対象とした情報発信の手法としてSNSということもある。また、このSNSを使った相談機能ということも将来的には考えられる。そういう点も含めて検討していきたい。

ジェンダー格差の解消

❤男女共同参画計画策定にあたっての知事の所信を。

知事　現在の計画で実現できなかった課題とその後の社会情勢の変化や、新型コロナの拡大により顕在化した女性をめぐる諸問題などを反映させる方向で、現在、策定作業を進めている。

骨子案の策定に当たり、女性に関する統計データや県が実施した男女共同参画に関する県民の意識・実態調査などの結果から分野ごとに進捗状況を確認し、課題を把握してきた。女性活躍100人会議や女性団体との意見交換などを通じて、女性活躍や男女共同参画に関した課題や取組に関しての意見や提案を聞いた。今後注力すべき施策や新たに求められる取組について、いただいた意見などを踏まえて盛り込んでいく。

地域の戦争遺跡を活かして平和教育

❤県として戦争遺跡の保存につながる調査研究についての考えはいかに。

教育長　戦争遺跡の保存活用や調査成果の公表などを行うことで、地元の人々が遺跡の存在を身近に知るきっかけとなり、命の尊さや国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに役立っている。今後、戦争遺跡の調査を先進的に進めている他県の事例も参考に、遺跡の重要性の判断基準や取り扱う範囲などを検討していきたい。市町村では、戦争遺跡の所在なども調査されるよう、技術的助言など必要な支援を行っていく。

【発行者】角　智子　〒690-0063 島根県松江市寺町67-23　TEL.(0852)28-8880　FAX.(0852)28-8881　E-mail:sumi@tomachan.net　ホームページアドレス http://www.tomachan.net/

民主県民クラブ 県内調査（県西部）

所属する会派民主県民クラブでは、毎年度、県内外の自治体の取り組みを調査しています。コロナ禍で県外への調査が難しいため、県内、石見地域を中心に調査活動を行いました。

魅力ある島根づくりに取り組む人たち

1月25～26日は浜田市を中心に調査を行いました。

障がい児の未来のために

いわみ福祉会を訪ね、室崎富恵理事長から、福祉会の設立に関わること、特に、学齢期を終えた知的障がいの子どもたちのための生活の場、活動の場づくりに、施設整備に尽力されたことをお聞きしました。

いわみ福祉会の室崎理事長（右）と

浜田商業の郷土芸能部の神楽

県立高校の魅力化

地域に開かれた高校教育の実現と高校を核とした島根創生を目指し、県市が連携して支援していく高校教育の魅力化に取り組む浜田商業の部活動を通した取り組みを調査しました。郷土芸能部の神楽の舞を見せていただきながら、生徒たちからも話を聞きました。この郷土芸能部があるから商業高校に進学してきたという生徒たちは、今後も神楽に関わりたいと地元就職を希望しており、神楽が若い人たちの地元定住のきっかけとなっています。

地域の特性を生かしたまちづくり

3月22～23日には、美郷町、邑南町で調査を行いました。

地の利を活かして空の駅

美郷町に伺い、ドローンを活用した「空の駅構想」と麻布大学フィールドワークセンターについて調査を行いました。

嘉戸隆美郷町長（中央）を囲んで

航空法などの制約があるドローンの運行ですが、障害物のない川の上をルートとして確保することにより運行が可能になり、江の川流域に集落が点在する美郷町は、運行しやすい地の利を生かして先駆的にドローンによる運送の取り組みを進めています。

害獣を活かす美郷バレー

山くじら（いのしし）の取り組みをもとに、産学官民が自発的に集う鳥獣害対策版シリコンバレー「美郷バレー」構想を進めており、先ごろ調印された麻布大学との協定は大きな強みとなっています。

邑南町寺本英仁商工観光課長（中央）と

嘉戸隆美郷町長にこれからの美郷町の抱負を語っていただきましたが、地の利を生かし、過疎を逆手にとった取り組みを進める熱意を感じました。

耕すシェフで定住に

邑南町では、食を通じた民間企業や大学との連携を進め、A級グルメのまちづくりや、食と農を学ぶ研修制度「耕すシェフ」の取り組みを進めています。「耕すシェフ」の地域おこし協力隊の定着率は4割を超え、空き家を活用して飲食店の経営などの起業が進んでいます。

スーパー公務員と呼ばれる寺本英仁商工課長には、日和町にある食の学校や、(一社)地域商社ビレッジプライド邑南などを案内していただきました。地域の資源を生かした取り組みに邑南町の今後が期待されます。

人口減少に歯止めをかけようと各市町の熱意ある取り組みが進んでいます。